



広報

イキシア

2022年5月

89号

イキシアには「団結して事にあたる」という花言葉があります。やっと思いを集めるようになったこの精神保健の分野に理想の福祉を実現する為にあなたの知恵と力をお貸しください。



『改めて、第二の家族』

理事長 寺田 一郎

三月二十一日で新型コロナウイルス蔓延防止等重点措置期間が終了しました。しかし、毎日の感染者数は、全国で二万人を越えています。因みに一年前の三月二十二日は、緊急事態宣言が解除されましたが、同日の感染者数は千百人でした。政治的には兎も角、市民感覚からはまだまだ安心できません。

三月二十四日には、ロシアによるウクライナ侵攻があり、女性や子供たちが犠牲になっている報道を目にするのが辛いです。

三月十六日深夜、福島県沖地震が発生しました。福島県や宮城県では最大深度六強、千葉県でも震度四が観測されました。百人以上が死傷し鉄道などにも被害が発生しました。

原材料と原油の値段が高騰を続けています。事業所運営のみならず私生活にも大きな影響が出始めました。特にワナーホームでは、ペジューブル（パン屋）が材料費高騰の直撃を受けています。グループホームの食材も同様です。

〇二二年度予算では、支出内容の再検討が不可欠となりました。

二〇二二年度事業計画
このようにいろいろなことが同時に起こる、先が見通せないという中で、二〇二二年度の事業計画が策定されました。

ホレブ寮開設から今年で三十六年となります。改めて「第二の家族」というコンセプトに基づいて事業を進めます。基本方針（抜粋）は次の通りとしました。

①ブランドینگ
法人として初めて取り上げる言葉です。ワナーホームのブランドイメージを職員間と外部に浸透させること。

②財務管理の徹底
二〇二二年度はいうまでもなく柏でのすくすくハウスプロジェクトが中心となります。十一億円に上る施設整備は、法人の規模からすれば大事業です。財務管理、特に収支状況のタイムリーかつ確実な把握が重要になります。

③人材の育成・確保
これは運営での大きな鍵を握っています。列挙した基本方針を実行する「人」について

では、まず多様な分野から人材を求めるところを意識します。それによって多様な発想ができる組織を作ります。

もう一つの視点は、現有職員の持つ力を開発し活用することです。これには職員にも自身ときちんと対峙してもらわなければなりません。職種が一八〇度変わる可能性もあります。

人材について（一考）
ところで、人材のことを考えると外国人労働者ということが頭をよぎりますが、日本は外国人に労働市場を開放していません。ウクライナからの避難民には、働く場は与えられません。

一方で福祉業界は言うに及ばず、農業、建設業、製造業（特に中小企業）などの分野で人手不足が長年言われ続けています。

そこで注目されているのが外国人技能実習制度です（技能実習法）。開発途上地域等の経済発展を担う「人づくり」に協力するという趣旨で、法務省と厚

労省の共管です。
調べてみてわかったこと。

①一般的には、まず管理団体が

実習希望の外国人を受け入れ、企業（＝実習実施機関）に斡旋する。

②令和三年六月時点の実習生は、主に東南アジアから約三十五万人。

③低賃金や暴行・セクハラ・人権侵害などの他に実習生の失踪・犯罪などが問題となっている。

④管理団体は、実習先を指導監督し、実習生を支援するのが役目。企業から毎月三万円～五万円の管理費が支払われる。全国に約三五〇ある。

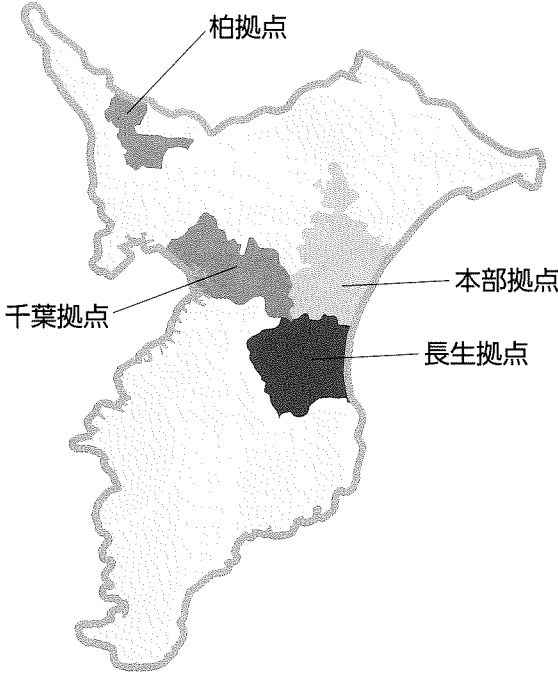
単純計算で企業から月額四万円としても百四十億円が管理団体に渡っています。しかし、この制度は、安価な労働力の供給システムとなっている恐れがあります。解決策は、外国人に労働市場を開放すること。

福祉分野でもこの外国人技能実習生が不可欠になりつつあります。さらにAIの導入も研究課題です。

自らの人材育成課題から大きな問題に発展してしまいました。大きな不安の中に置かれている技能実習生。これは日本の青年にも言えること。採用後の研修計画を立てるヒントになりそうです。第二の家族、その三十六年目です。

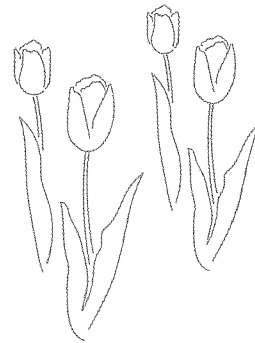
①一般的には、まず管理団体が

2022年度 事業計画



本部拠点 (居住系事業所)

- ケア付き共同住居
- 共同生活援助
- 日中サービス支援型
(介護サービス包括型)
- 短期入所 (単独型)



統括施設長
武藤朱里

今年もホレブ寮前の桜を利用者と楽しむことができました。法人本部拠点の居住系として、利用者が重度・高齢化しつつあります。加えて地域の困難ケースや区分の高い利用者の受け入れも役割として担っていきます。そのための職員配置も必要となり、収支バランスの悪化につながっています。対象利用者の状況に合わせた住居の選定や、利用者の安定を図るために相談支援事業所・日中活動系事業所との連携を強化します。

だいちには、夕食支援を拡充するためセントラルキッチン体制を整え、土日も食事提供を始めます。

今年度も新型コロナウイルスの感染状況に応じた運営を想定しています。感染防止を徹底し、利用者の余暇活動や地域活動を行います。

【新ホレブ寮・クロワール・ファミーユ】

新ホレブ寮は、利用者の高齢化に伴い、介護スキルを要するようになりました。介護技術の向上や、利用者の生活安定のためプログラムの再編

を行います。課題である定員割れと施設設備の老朽化に順次対応します。

クロワールは、日中サービス支援型としての役割を担い、日中のサービス、夜間の支援体制を維持し、障害支援区分三以上の利用者を受け入れられます。夜間帯に排泄介助や服薬確認などの支援量が増加しつつあるため、勤務形態の見直しを検討します。

ファミーユは重度・高齢化が続き、居室清掃や洗濯、同行支援等の介助が増えているため、アセスメントを徹底し、入所者が定着できるように支援を行います。

クロワール、ファミーユにおいては、訪問看護や訪問診療を受け入れ、利用者の精神面、身体面の変化に留意します。顧問医や看護師、相談支援専門員との連携、六ヶ月毎のモニタリング、毎月の定期面談は継続して徹底し、個別支援計画に沿った支援を行います。

【シエスタ・ノバハイツ白里】

短期入所事業は、コロナウィルス感染予防に伴い、稼働率が大きな課題となっているため、



感染対策を実施した上での積極的な受け入れを行います。シエスタは常時見守りが必要な方や緊急受け入れを行い、稼働率の目標を七〇%とします。ノバハイツ白里は、相談支援事業所や医療機関と連携し受け入れを行います。

【だいち】

重度・高齢な利用者が増えつつあり、日常生活における支援（掃除、洗濯、受診同伴、服薬管理、排泄介助等）が必要となつていきます。今年度は、①土日の夕食支援、②定期面談、モニタリングと生活指導の徹底、③健康プログラムによる食事と運動の意識づくりを行い、利用者がグループホームでの生活を維持できるようにします。

夕食支援の拡充や職員の分担制により、支援量の多い利用者も受け入れができる体制を整えます。

本部拠点

（日中活動系事業所）

- 生活介護
- 就労移行支援
- 就労継続支援B型
- 就労定着支援
- 相談支援（特定・一般・障害児）
- 障害者就業・生活支援センター



統括施設長
野老 順子

日中活動系事業所は、本部拠点にある相談系・通所系事業所となります。今年度は、管理体制を再編し、連携・協力の体制の下、事業を運営していくことになりました。

通所系事業所において、地域からの利用者が増加しており、効率の良い送迎ルートを検討し車両の点検、整備を確実に行っていきます。ホレブデイサービスセンターの作業棟が完成し、昨年度二月から生産活動を開始しました。利用者のニーズや適正に合わせて、本部拠点日中活動の場として選択肢を充実させ、生産活動や外勤において、情報共有、共同受注等、協力体制の

下、実施してまいります。

相談系事業所において、四月より山武郡市障がい者基幹相談支援センターが開設され、山武圏域の相談体制の強化のために法人内事業所として協力関係を築いて行きます。

【ホレブデイサービスセンター】
新型コロナウイルス感染症対策として、活動場所を二ヶ所に分けての対応を継続します。そして、昨年度二月からスタートした作業棟での生産活動を軌道に乗せて行きたいと思えます。

【ワークシヨップしらさと】
アセスメントをしっかり行い、就職時期を見極め就職に結びつけていくこと、様々な障害特性に合わせた支援に対応できるよう職員のスキル向上に力を入れて行きます。

【ワークシヨップおおあみ】
一日の平均利用者数が定員二十名となるよう新規利用者を積極的に受け入れ、利用者一人ひとりにあつた手厚い対応と利用者の力を引き出す支援をするために、所内研修・事業所研修の他OJTを通して職員の育成を図ってまいります。

【パンピングハウス】
相談支援専門員が、ケース

を抱え込まないよう申し送り、処遇検討会議等の場で、積極的に支援方針、対応等議論し情報共有してまいります。

【山武ブリオ】
①リモートでの面談、会議等の実施の拡充②生活困窮者就労支援に係る受け入れ先の開拓や日中活動に繋げる支援の実施③アセスメント力をつける。以上三点を課題とし取り組んでいきます。



本部紹介



人事課課長
山武ブリオ施設長
高木 由佳

人事課の高木です。ワーナーホームの職員数が、二〇二二年四月一日には、二三四名となりました。

人事課に求められている役割は、職員の育成と人材の確保、そして職員の働きやすい環境づくり等です。

各事業所の状況を把握するためにも、現場に足を運び職員と関わる時間を大切にしたいと思えます。また、事業展開に合わせた計画的な採用も併せておこなってまいります。



事務課 課長
野老 正樹

今年度、すくすくハウスの準備が本格的に動き出します。その準備は法人全体に大きな影響を与えるので、全体の状況を把握しながら、円滑に進むようサポートしていきます。職員が二〇〇人を超え、多岐にわたる事業を実施する中で、管理部門に求められる役割は大きい。そのことを認識し、まずは、六月の決算を一丸となって乗り越えます。

千葉拠点

- 共同生活援助
- 短期入所（空床利用型）
- 就労移行支援
- 就労継続支援B型
- 相談支援（特定・一般・障害児）



鎌取相談支援センター
センター長
四方田 清

千葉拠点三事業（相談系、居住系、就労系）の展開は、下総精神医療センター（以下、下療）を主とする地域精神科病院からの受け入れと相談・日中活動の支援等で件数を伸ばしています。しかし、既存の事業定員やスペースなどに限りがあり、今後は拠点全体の事業所増床や定員増による事業展開を図ります。今年度は鎌取駅近での展開及び、中期計画として下療敷地内もしくは隣接地でのグループホームや作業場所の新設を二つの柱として準備を進め、千葉市（緑区）の精神障害者支援の牽引役として重要な役割を担うことを事業方針としてまいります。

一・ 兼取相談支援センター

相談支援体制の中核的機能を担い、充実強化を図るため相談支援専門員を増員、地域移行支援事業を近隣精神科医療機関と連携し積極的に実施します。精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業は引き続き受託し、千葉市全体の精神障害者地域移行支援推進に向けたコーディネートやアドバイザーなど、地域貢献としての役割を担います。人材育成では、個別の相談支援についてOJTなどを通じ面接技術の習得とスキルアップを目指します。また、昨年度から開始したピアサポーターの育成とピアによる相談支援は今後も継続していきます。

二・ フジエール

地域生活への移行が困難な精神障害者を受け入れることが、地域におけるフジエールの役割です。長期入院者の地域移行支援へのニーズに対応し、引き続き役割を果たすため新たに利用定員十名程度のグループホームを二〇二三年度以降の増設を計画中です。立地は下療敷地内もしくは隣接地とし、利用期限は設けず、利用者のニーズに合わせた支援を展開予定です。前年度をもって千葉市地域生活支援拠

点事業の委託は終了しました。短期入所は個別給付の空床利用型として運用していきます。

三・ ワークショップ兼取

就職を希望する利用者に対し個別支援と就労プログラムを組み合わせることで、計画的な就職者の輩出と新規利用者の呼び込みをしていきます。定員増や作業収入拡大の計画は、兼取駅近でパン販売開始と下療敷地もしくは隣接地での新設による増床・定員増(中期計画)を柱とします。利用者の工賃の大きな収入源であるパン販売は、種類・生産数を増やし売上増となりました。固定客の来店頻度や購入金額を上げるための取り組みでは、売上額で前年度比一一〇%を目標とします。昨年度は就労収入が黒字だったので、工賃評価の評価基準や時間の区切り方、また単価の見直し等を行い利用者への支払額を増やしていければと考えています。「利用者ミーティング」は要望やルール・行事等を決めるだけでなく、利用者間の相互理解や支え合いが深まるよう継続していきます。



施設長紹介



フジエール施設長 末永慎介

今年度フジエールとワークショップ兼取の施設長を務めます末永慎介です。年度替わりで千葉拠点は多くの異動があり、新たな顔ぶれとなりました。これまでの皆さんが築き上げてきたことは継承発展させつつ、職員も、支え合い、学び合い、認め合う職場作りにも努めます。利用者も職員も笑顔でいられるワークショップ兼取とフジエールにしていきたいと思えます。

柏拠点

- 地域生活支援拠点
- 地域活動支援センター
- 就労移行支援
- 就労継続支援B型
- 就労定着支援
- 共同生活援助
- 短期入所(空床利用型)
- 相談支援(特定・一般・障害児)
- 訪問看護
- 放課後等デイサービス
- 児童発達支援
- 日中一時支援



統括施設長 大久保夏樹

障害者の重度化・高齢化を踏まえた地域移行・地域生活の支援、相談支援の質の向上、効果的な就労支援、医療的ケア児の障害児支援の推進、感染症等への対応力の強化と、令和三年度報酬改定にて対応された課題は、柏拠点の実施する事業および解決したい課題と合致します。それら解決したい課題を念頭に、昨年度に引き続きそれぞれの事業所の機能を強化しながら、地域ネットワークや地域特性を生かし、福祉サービスのこれま



での概念にとらわれずに展開してまいります。また、すくすくハウス建設の前段として柏の葉事業所にステップ・ジャンプが移転するなど、拠点として事業規模が大きくなるため、その管理体制や情報共有システムなど昨年度からの取り組みを継続させながら、改善します。特に大きな取り組みとして、施設長の異動があります。柏地域で、相談支援や就労支援のフィールドで地域づくりに貢献してきた小助川施設長、上野施設長が交代することは、現場にとっておおきな変化です。しかし、相談や就労で構築されてきたネットワークをそれぞれに活用し、枠組みを超えた地域づくりがさらに進むこと、拠点としてそれぞれ

の機能がさらに充実していくことを期待しています。そして、拡大する事業を担う、次世代リーダーの育成に力を入れ、地域に必要とされ、愛され続けるワーカーホームをつないでいきます。

重点課題

一 医療的ケア対応「すくすくハウス」設立
二〇二三年事業開始を目指し、施設の建設を進めます。

二 精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの充実
ピア活動や本人たちが主体的に取り組む地域づくりをさらに充実させてまいります。ご本人たちのアイデアによる啓発動画やピアカデアを実現できるようなサポートします。

三 地域企業・農家との連携、福祉喫茶の運営による就労支援の充実
二〇二一年度に取り組んだ、イチゴ農家との農福連携や、キッチンカーなどの活動を発展させてまいります。

施設長紹介



たんぼほろセンター(地活) 小助川 佐代 なたげワーカー施設長

この度、柏拠点わたげワーカー就労移行支援、就労継続支援B型事業、地域活動支援センターたんぼほろセンターの管理者に就任しました小助川と申します。障害のあるなしに関わらず地域の方々に愛され続ける場所であるよう、新しい仲間と共にカフェや活動の場を盛り上げていきたいと思えます。今年度はキッチンカーでの販売も実施します。どうぞご期待ください！



たんぼほろセンター(相談) 上野 泰典 タナゲワーカー施設長

約八年半勤めた「わたげワーカー」から異動し、この四月よりたんぼほろセンター(相談)とエクラス(居住)の施設長となりました。

過去に居住支援は一年間、相談支援は二年間の経験があります。それは十年も前の事です。今回の異動は、私にとっても新たなチャレンジと位置づけ、施設長責務を果たします。

長生拠点

- 相談支援(特定・一般・障害児)
- 地域活動支援センター
- 共同生活援助
- 就労移行支援
- 就労継続支援B型
- 障害者就業・生活支援センター



主任 橋本 義隆 長生プリオセンター長

長生拠点では、地域生活支援センターとプリオ両事務所の密状態が課題でしたが、隣接地の家屋を取得しました。昨年六月からプリオ事務所とワークショップの作業棟(従たる事業所)として使用し、密状態の解消と作業スペースの確保ができ、拠点として一体的な事業展開が可能となりました。

今年度は、地域ニーズの分析を行い、中長期的視点で拠点としての方向性を検討していきます。また、職員研修に重点を置き、資質向上と適材適所を図ります。

【長生地域生活支援センター】

計画相談は、引き続き断ることなく新規利用者を支援し計画作成・モニタリング共に件数増を目指します。地域移行支援は、「にも包括実務者会議」の活動を通し、長生圏域内の精神科病院との連携を強化していきます。I型は、新型コロナウイルス感染症防止対策を徹底しながら、地域利用者の居場所としての役割を果たしていきます。

【長生プリオ】

定着率向上のため、企業訪問を増やし、相互理解と連携強化を図っていきます。その一環として企業向けに、就労移行事業所やB型事業所の活動をわかりやすく解説したパンフレットの作成を行います。

また、交通機関が乏しい圏域であるため、送迎の実施など、より働きやすい環境を整えていけるよう企業へ働きかけます。

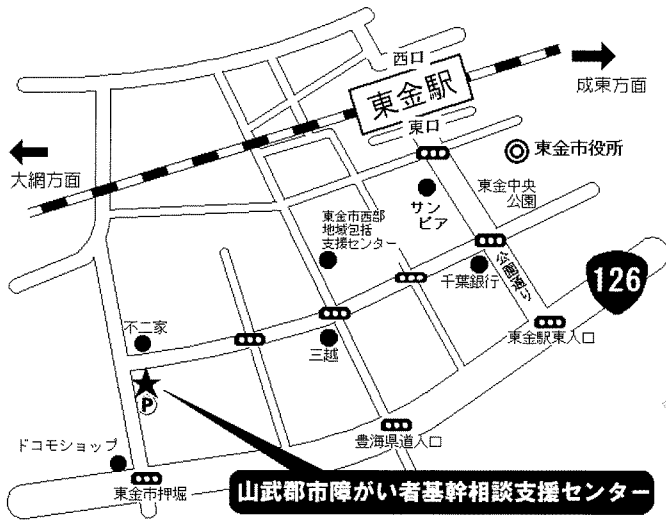
【ワークショップ茂原】

軽作業スペースとして作業棟ができ、定員を二十名から三十名へ増員しました。それに伴い工賃支払い額も増額しているため、売り上げ向上を目指します。SNSの活用や新作パンの販売など取り組みますので、ぜひお楽しみになってください。

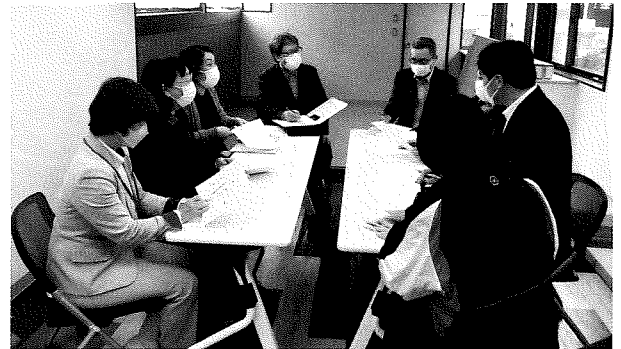
【ぶらり】

今年度は利用者支援を充実させ、入院者などが出ないようにし、安定した運営を目指します。また、ぶらりの特色として、駅が近いことから十名定員のうち半数が一般企業で就労しています。これを安定して続けられるよう長生プリオとも連携し支援を充実させていきます。





山武郡市障がい者 基幹相談支援センター 4月1日開設



四月から、新しく山武郡市が共同設置した「山武郡市障がい者基幹相談支援センター」を、ワーカーホームが委託を受けて運営を開始しました。

基幹相談支援センターは、地域の相談支援の拠点として①専門的・総合的な相談業務、②地域の相談支援体制の強化（事業所や職員の支援）、③地域移行・地域定着の促進、④権利擁護・虐待防止などの業務を行うものです。それに加え、山武圏域自立支援協議会の事務局も行います。昨年十

月に公募が発表され、十二月にはプレゼンテーションを行い、今年一月に受託が決定しました。

事務所は山武郡市の方がアクセスしやすいよう、東金駅から徒歩約十分の場所です。

職員はワーカーホームから三名が異動して配置され、それに加えて郡市内の協力法人（福）翡翠会、（医）静和会、（有）あいの手介護サービス、（特非）リンクから曜日別に専門職員を出向していただいて、毎日四人で業務にあたります。

ワーカーホームは開設以来相談支援を重要な業務ととらえています。また自立支援協議会の活動にも積極的に関与して、ネットワークの構築に取り組んできました。基幹相談支援センターを担うことで、地域の相談支援体制の強化をはじめ地域作りに寄与することを目指しています。今後ともどうぞよろしくお願いたします。（山岡）

※山武郡市障がい者基幹相談支援センターのご案内

【住所】東金市南上宿四一八

【電話】〇四七五八六六四七四

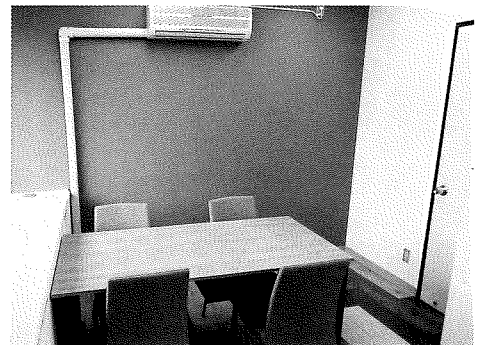
【対象者】山武郡市（東金市・山武市・大網白里市・九十九里町・芝山町・横芝光町）に

お住まいの障がいのある方、ご家族、関係機関の方など。

【費用】相談にかかる費用はいただきません。

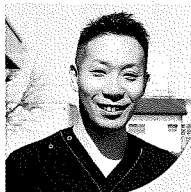
【窓口開設日】月曜日～金曜日（年末年始・祝日を除く）

【窓口開設時間】午前八時三十分～午後五時十五分（緊急や虐待に関する相談や通報は時間外も受け付けます）



昇格者紹介

主任



関根 悟

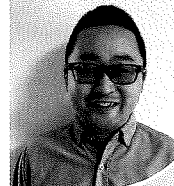
この春より主任に昇格しました関根です。主任という管理職に任せられ身の引き締まる思いですが、今まで以上に広い視野をもって利用児者やその家族と親密に関わり業務に携わっていきたくと考えております。今後も皆様のお力添えをいただきながら法人の発展のために力を尽す所存です。



金田一 正史

昨春、36年間の千葉県職を卒業、第2の職業人生を歩み始めたばかりでの大任の拝命、身が引き締まる思いです。

精神保健福祉相談員、精神保健福祉士としての経験・知識・技術を活かし、相談支援事業を通じて、障害者等のリハビリ支援と共生社会の実現に取り組んでいきたいと思っております。どうぞ宜しくお願いいたします。



齋藤 恵大

入社11年目を迎えました。何をやってもうまくいかず、辞めようと思っていた時期がありました。今の私がいるのは、支えてくれた家族や職場の方々、温かい言葉をくれた利用者の存在があったからです。本当に感謝しています。これからは主任として、長生拠点全体の課題(職員のスキルアップ等)により一層力を入れて参ります。

リーダー



山下 真紀子

私は、今まで「すすく」で働く中で多くのことを学びました。今後はリーダーとして、今の私に求められていることや、チームの課題は何かということを考え業務に従事していく必要があります。そして、課題解決のために、広い視野を持つことを意識しチームスタッフや上司と対話を行い課題解決につなげていけるようにしていきたいです。



高江 知美

パート職員で入職し、4年後正規職員になり、5年経過した今年度よりリーダーとなりました。これまで続ける事が出来たのは、様々な場面で助けて下さった、先輩方、同僚のお陰だと大変感謝しております。

今後も、利用者、職員共に生き生きと過ごせる場所を提供出来るよう心掛け、有り余る元気と笑顔で頑張ります。

よろしく申し上げます。

ワナーホームの主な動き

《二月》

- ・初詣(わたげワークス)
- ・初詣ワークショップ(おおあみ)
- ・初詣ワークショップ(しらさと)
- ・初詣(すくすく、てくてく)
- ・初詣(ホレブデイサービス センター)
- ・初詣(ワークショップ(茂原))
- ・障害との付き合い方講座①(わたげワークス)
- ・元旦イベント「短冊書初め、おしるこお茶会」(ぶらり)
- ・年始レクリエーション「書初め・カルタ・映画鑑賞」(ホレブ 寮・クロワール・ファミーユ)

《三月》

- ・障害との付き合い方講座②(わたげワークス)
- ・就労移行支援事業説明会(わたげワークス)
- ・節分メニュー(だいち)
- ・節分祭り(すくすく、てくてく)
- ・節分(ホレブデイサービス センター)
- 《三月》
- ・お花見ウォークラリー(エクラス)
- ・花見(ホレブデイサービス センター)
- ・障害との付き合い方講座③

- (わたげワークス)
- ・キッチンカー営業(わたげワークス)
- ・ひな祭り(ホレブデイサービスセンター)
- ・卒園・卒業・進級を祝う会(児童発達支援すくすく、放課後等デイサービスすくすく)

《四月》

- ・すくすく柏の葉チャリティイベントにてキッチンカー営業(わたげワークス)
- ・お花見弁当(だいち)
- ・利用者ミーティング(ワーク ショップ(兼取))
- ・お花見ウォーキング(ベジール柏)

収支決算書

自2021(令和3)年4月 1日 至2022(令和4)年3月31日

イキシア会 単位:円

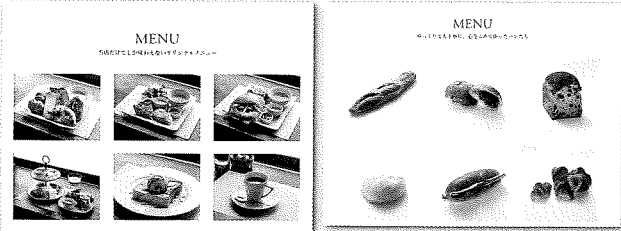
支 出		収 入	
科 目	金 額	科 目	金 額
振込料	39,851	会 費 (147名)	818,000
小 計	39,851	小 計	818,000
次期繰越	7,608,570	前期繰越	6,830,421
合 計	7,648,421	合 計	7,648,421

編集後記

先日、購入した観葉植物が大きくなり、初めて植え替えをしました。そして、冬から春の季節、枝のみの木に新芽が出てきて、少しずつ緑色に変化しているのを見てほっこりしています。新芽が育つ姿のように、皆さんに興味を持ってもらえる広報誌「イキシア」も育てていきます。よろしくお願いたします。(A)

PAISIBLE

ホームページリニューアル



社会福祉法人ワナーホームが、障害者とともに運営するベーカリー・カフェは、千葉県内で5店舗になりました。障害やハンディのある方たちと一緒につくる、PAISIBLE(ページブル:癒しや憩い)な空間が地域に広がり、愛されていることに心から感謝いたします。

そんなPAISIBLEをもっとたくさんの方々知ってもらえるよう、ホームページをリニューアルオープンしました。PAISIBLEのコンセプトは大切に、各店舗の個性が表現されたホームページをぜひご覧ください。各店舗が発信するインスタグラムなどのSNSもフォローよろしくお願いします!

発行所 **ワナーホーム
イキシア会**

千葉県大網白里市細草3215

電話 0475-77-2100(代)

URL <http://www.wanahome.or.jp>

発行人 寺田 一郎